

今村復興大臣宮城県訪問ぶら下がり会見録

(平成28年8月8日(月) 18:28~18:33 於：石巻市新蛇田地区)

1. 質疑応答

(問) まず、大臣に就任されて今日、宮城県では初めて被災地を回られたと思うんですけども、御覧になってみて如何でしたか。

(答) 実は発災直後に、当時の石破政務調査会長、浜田靖一元防衛大臣等と一緒にこちらに参りました。そのときには、日和山から見て、もう大変なことが起きたなということで、どうなるかと思っておりましたが、今日5年ぶりに来て、本当に力強い復興をやられていることに、大変力強く感じております。

改めて被災された方々、あるいは亡くなられた方々にお見舞い申し上げ、また冥福をお祈り申し上げる次第でありますけれども、一日も早く立派なまちをつくっていくということが、そういった方に対しての、私は一番の手向けになるんじゃないかということを感じたところでございます。

(問) 実際、被災地を御覧になってみて、国として具体的にこんな支援をしていくみたいなお話があればお願いします。

(答) 今までも大体地元と話をしながら、それに沿ってやってきたつもりでおります。ただ、刻々と状況は変わりますから、それに応じてこれからも柔軟に対応して、とにかく立派なまちづくり、ふるさとづくりということで、今後も更にピッチを上げて進めたいというふうに思っております。

(問) それに、今日は県庁のほうで知事とも会談されたかと思うんですけども、その中で職員を継続的に派遣してほしいという要請もあったんですが、そちらについては如何ですか。

(答) それは、もちろんできるだけのことはしたいと思えます。

ただ、最近、御案内のように、熊本のほうにも人を出したりして、もう人が足りないということでもありますので、私が知事に言ったのは、いろんな意味で工事を効率的にやるとか、それから人的パワーでは、我々クラスのいわゆる団塊の世代、まだ元気ですから、そういったリタイア組をしっかりと活用することも考えられたらどうですかということも申したところでございます。

(問) 国のほうからも何か支援みたいなことはされる御予定はあるんですか。

(答) 国の職員をということですか。

(問) はい、リタイアされた方。

(答) もちろん各界からという意味ですよ。民間のOBの人もいるでしょうしね。

(問) すみません、橘副大臣にも一言、今日の視察の感想と、また復興行政に取り組む決意を一言お願いします。

(橘副大臣) 今、大臣のお話にありましたように、大変な災害から5年超たちまして、本当に地域、地域でみんなが頑張っているという事実を感じました。その中で、でき上がっているところもあるし、まだ及んでいないところもある。そういった及んでいないところについて、是非またいろんな御要望などを伺いながら、それを国としてもまた手だてを講じていく。そうやって、更に復興が加速化していく、そして皆さんに喜んでいただける形というのを、あと、やっぱりここ一、二年が大変大事だと思いますので、つくり上げていきたいと思えます。

今日、こうやってこの場所にも立たせていただいて、こういう新しいコミュニティも一つずつ作られている。そういったことが全体に、それぞれの地域に及んでいけば、だんだん皆さん、心の上でも、そしてまた未来への希望の上でもだんだん実りが出てくるんじゃないかなと、そういうふうに感じました。そうなるように努力したいと思えます。

(大臣) 私から追加で一言申し上げます。

先程伺いましたが、景観大賞というのをもらわれたと聞きましたけれども、これからは景観だけじゃなくて、是非中身を充実して、今度は生活充実大賞をもらうように、その辺の充実をこれからも市長さん等々含めて、是非頑張ってくださいようお願いしておきます。そのための支援もまたやらせていただきます。

(以 上)